

NPO K's Point

第6回 運営会議（総会）

開催日：2017年5月14日（日） 午後12時30分～12時50分

議長：森本 武（NPO K's Point 代表）

司会・書記：伊藤 あゆみ（NPO K's Point 事務局長）

目次

『NPO K's Point mission（目的）』

【報告事項】

1. 活動報告

- ・2015年度後期／2016年度前期（pp.1-2）

2. 収支報告

- ・2015年度収支報告（p.3）

3. 2017年度活動計画（p.4）

- ・事業別年間計画
- ・出版事業

NPO K's Point

mission

目的

J. クリシュナムルティの思想研究をとおして、思考に依存しない生き方の可能性をさぐり、人間のいだけ不安の軽減、解消の実現をはかる。
より具体的には、「今」という絶対的現在を曇りなく生きる知性の存在を検証し、その成果を種々の活動、媒体をとおして広報する。

- 1. 本会は、一定の目的をもった慈善事業を営む資源を確保するため、営利事業にも節度をもって取り組む。**
- 2. 目的の実現と手段は直結しているので、手段としての営利事業の取り組みにおいても、常に目的の内包する意義を逸脱しないよう細心の注意を払う。**
- 3. 組織的成熟にむけて短中期的に構想するが、長期の見通しはもたない。**

1. 活動報告 2015 年度後期 / 2016 年度前期

■ 2015 年度 後期 (2015.12.1-2016.5.31)

- 2015 年 12 月 20 日 Tea Party 「ひとりが好きなひとの处世術」** (京都嵯峨芸術大学 / 京都市右京区)
「全員野球」という奇妙なコトバがあります。だれひとり我がままは許さないよ、勝つためには、といったニュアンスなんですか。集団の責務と個人の快楽が衝突する場面が、会社や家庭においてみられます。「ひとり、道なき大地を、自立して前進せよ」という K のコトバに忠実に生きようとするれば、集団は一層うとましい。「全員」とくくられると息苦しい。
- 2016 年 1 月 16 日 K の生活塾 第 27 回 「安上がりで高貴な暮らし」** (京都嵯峨芸術大学 / 京都市右京区)
貧乏暮らしを楽しむひとの中には、自己の尊厳をかなぐり捨てて、卑屈な精神に甘んじるひとも多いようです。安価な暮らしが貧相な暮らしでしかないなら、気がめいります。今回のテーマの鍵は「高貴」にあります。暮らしを高貴に保ちつつも、安上がりにすこせなものでしょうか。
- 2 月 10 日 K's Point DIGITAL News Letter 「insight 05」 発行**
- 2 月 13 日 講演会 「食と霊的健康 in マニホージュ」** (マニホージュ / 神奈川・秦野市)
栄養学にもとづいた食養は、タンパク質、脂肪、ビタミンなどの物質的な要素をとりあげ、主として肉体の健康を問題にしますが、健康とはもっと大きく、深い概念なのです。人間は、見える肉体のみならず、見えない多次元なカラダをもっています。それらの不可視なカラダに自己の実体が隠されており、病気の多くがそこから現れ出てきますが、そのように理解しているひとは少ないようです。今回は、神哲学、波動理論、古代ヨガの身体論等の観点から最善の食を究明します。
- 3 月 6 日 講演会 「非医学的認知症考 <根源的な知>としての愛の作用に注目！」**
(キャンパスプラザ京都・京都市下京区)
記憶障害、幻視などを起こす認知症という病気の持ち主が厄介者扱いされています。本人にも、家族にも悲劇的な生活だけが待っているという諦めが広がっています。しかし、認知力の低下したひとを、健全な個性をもつひととして認め、心地よい関係を築くことは不可能ではありません。人間を支配する知性は、脳という臓器に限定されたものではないという観点から、認知症に光をあててみたいとおもいます。
- 4 月 17 日 探求の会 「わたしのミッション」** (兵庫県民会館 / 神戸市)
隠されているものを探すには、それが実在することをあらかじめ知っている必要がある。あなたにほんとうに何かの才能があるのか、運命の人がどこかにいるのか、致命的な病魔の種が潜んでいるのか、分からない。なによりも、あなたは、なぜ、この地上世界において、息をし、口を開き、手足を動かし続けていなければならないのか。あなたという生は、何をしなければならないのだろうか。
- 4 月 29 日 講演会 「『好き』を究める —J. クリシュナムルティから学ぶ脱頭脳の生き方」**
(iTohen Books Gallery Coffee 〈主催〉 / 大阪市)
自分の好き勝手は極力表に出さず、会社や家族のために生きていくのが、大人の証とみなされているような社会があります。しかし、「好き」をほったらかしにしておいて、真に自分が生きていくといえるでしょうか。リアリティーを知る力をもたない思考に依存した人類の文明・文化を批判しつつつづけたインドの哲学者 J. クリシュナムルティのこぼれ手がかりに、このテーマをみなさんと共に探求したいとねがっています。
- 5 月 15 日 K の生活塾 第 27 回 「安上がりで高貴な暮らし」** (京都嵯峨芸術大学 / 京都市右京区)
「備えあれば憂いなし」。そこで、「預金残高を増やせ」、「生命保険に入れ」、「健康診断は毎年欠かさず」、「冷蔵庫のストックは常にチェックしろ」などと、備えに追われる。世の健全な市民の大部分は、明日に備える日々を堅実に生きていようだが、「今」はどこにいったのだろうか。将来に不安をかかえる自分は、事実として「今」にいる。ここに気づかないと、人生まるごと無駄におわるのではないか。

■ 2016 年度前期 (2016.6.1-11.30)

6月26日 Kの生活塾 第29回「思い出との付き合い方」(京都嵯峨芸術大学 / 京都市右京区)

過去の光景や体験は、時に、甘く、時に苦く、今によみがえる。
ロマンチックな思い出は人生の味付けとして欠かせない、とひとは考える。しかし、その甘さや苦さに、関わりを深めていると、今はいずこかに消失し、過去が今を支配する人生になる。「思い出」を甘美な体験情報とするわがままな意識とどのように付き合うべきなのか。

7月17日 Tea Party「最新作「今、2016」の朗読。あなたのなかの今をみる。」

(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

詩人アナーキー・タケこと、K's Point 代表の森本武が最新作『今、2016』の朗読をおこないます。詩を軸にして、いつも意識のなかで置き去りになる「今」について話しませんか。

8月7日 トーク+対話「至福の日常を生きる「こころ」の正体」

(チーム医療研修室 / 東京・豊島区大塚)

肉体は、重さも感触もあるのでモノとしての実在感がしっかりしていて、扱いやすい。それに対して、「こころ」は、自分自身の大本であると実感しながらも、調整に苦労する。「こころ」の乱舞は、人生そのものの波乱となることは明白である。人間の根本的解放を目指したクリシュナムルティの基本思想に学び、「こころ」という存在についての理解を深めたい。「こころが、一切のパターンをもたず、欲望の盛り上がりや、減退からも解放されることは可能なのでしょうか。ええ、明らかに可能です。そのような営みこそが、まさに「今」に生きていることなのです。」(J.クリシュナムルティ)

8月15日 K's Point DIGITAL News Letter「insight 06」発行

9月3日 朝から！ K's Point「KPのウチとソト —Within KP Without KP」

(京都嵯峨芸術大学 / 京都市右京区)

自己という存在は、常に「ここ」にあって動かないもの。カラダは、ときに家庭にあり、ときに職場にあり、ときに飲み屋にあって、というぐあいに移動が常。ところが、自己も、その場の影響を受けてフラフラしているようにみえます。K's Pointでの交流を無垢に楽しむ自己が、場を変えると消えるのはなぜでしょう。カラダの居場所に応じて自己像を調整する機能が自動的に作動するからでしょうか。

10月1日 Kの生活塾 第30回「話す／聞く」(京都嵯峨芸術大学 / 京都市右京区)

ひととのふれ合い、などという表現をだれもが軽々しくつかうのだが、肌のふれ合いよりも、言葉とおしてのふれ合いが主流となる現実がある。その日々の現実において、言葉を、音声のやりとりに関わりをもち、ふれ合うという実感にまで持ち上げて、話し、聞くだけの誠意を、あるいは忍耐を、あなたはもちあわせているだろう。

11月13日 講演会「祈りは、効く。」(ハートンホテル京都 / 京都市中京区)

祈りは、気休めの手段ではなく、ヒト・コト・モノを動かす確かな力です。祈りは、また、自己を立て直す最強、最善の営みでもあります。祈りをたんに神秘化するのではなく、その作用を日常の感覚でも理解できる原理・法則などによって徹底解明し、実用的な手段としての祈りの活用も分かりやすく示したいとおもいます。

11月26日 講演会「なりゆきに生きる。」(古心庵(主催) / 京都市右京区太秦)

二つのことを、いっしょに考えたいのです。ひとつ、頭(思考)は信頼出来ない、という事実。ふたつ、生きているという姿は、動いているようにみえて、永遠の「今」という一点でジツとしている、という実体。この二つを一つにするのが、沈黙の「知性」なのです。これは、「今」を常に感知している優れもので、じつに頼りになる。この「知性」で生きると、「なりゆき」に徹底服従できるから、安心の人生になるはず。

2. 収支報告

2.1

2015 年度 <第 5 期> 収支報告 (2015.6.1-2016.5.31)

■ 収入の部

勘定科目	実績	(参考) 昨年度実績
イベント事業収入 徴収したイベント参加費・講演料・「Kの生活塾まとめ払い」など	119,600	100,800
会費収入 年会費	112,200	154,000
出版事業収入 出版物の売上げ	136,478	45,905
相談事業収入 「対話プログラム」の収益	0	0
寄付金収入	0	6,300
雑収入	0	1,500
[合計]	369,278	308,505

■ 支出の部

勘定科目	実績	(参考) 昨年度実績
イベント事業費 会場使用料・交通費・備品使用料など ※飲食代は含まず	119,604	79,066
出版事業費 出版物発行にかかる費用	602,864	143,830
相談事業費 「対話プログラム」にかかる費用	0	0
管理運営費 書籍の発送料・ウェブサイトの維持管理費 (通信費)	3,395	7,020
雑費	5,000	336
[合計]	730,863	230,282

注：スタッフへの給与、事務経費は含まない。

3. 2017 年度活動計画

事業別年間計画

【イベント事業】

年度内に以下の行事を予定

- ・ K の生活塾 [会員限定] : 4 回
- ・ 講演会 : 5 回
- ・ 探求の会 [会員限定] : 1 回
- ・ K 語・観察会 : 1 回
- ・ その他イベント : 4 回

※イベントの回数・内容等は、は予告なく変更される場合がある。

■ 2017 年度 K の生活塾 日程

2017 年 6 月 24 日 (土) | 第 33 回『「ありのまま」でいい?』

どこまで余分や飾りを剥ぎ取ってやれば、素の姿が現れ出てくるのだろう。無知の弁解は、「ありのまま」ではない。

2017 年 10 月 1 日 (日) | 第 34 回『部分に秘められた真理』

全体は部分の集合体という素直な論理に従えば、部分の役割が見えると全体を立て直せるはず。実はそうならないのは、部分の中に全体を見ないからだ。

2018 年 1 月 20 日 (土) | 第 35 回『老い』

避けられない時間の進行の制止。それとともに進む老い。この変化を利益創造に結びつける生き方はないか。老いは進化する霊の味方である。

2018 年 5 月 13 日 (日) | 第 36 回『無責任と無関心』

これらの二つの要因がガッチリ手を組んだ人生とはいかがなものか? 世間の枠外に生きる輩になるだけか。それぞれ積極的に利用できる要素もないではない。

【出版事業】

文庫本の出版 (1 冊)

【その他】

PDF 版 ニュースレターの発行

本会ウェブサイト上で公開している、Digital News Letter 「insight」 を、年度内 2 回を目処に発行。